# 年間業績発表　棚卸資料

部門　　入所　／　通所　／　訪問
PT　／　OT　／　ST
コアカリ（　　）

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。
棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後に活かすために実施します。
ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。
これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。
評価結果を下記にまとめてみてください。

≪年間目標≫
①OTとしての定量的な評価が導入できる（人間作業モデルの導入・習熟）
②見学実習・地域実習・評価実習・インターンシップ(新規)の運用を検討する
③入所・通所独自で作業活動を通しての介入を実施する
④入所・通所・訪問リハでの協業を図る

●構造　structure
入所3名　通所2名　訪問1名
①MOHO、MOHOST、APCD（絵カード評価法）等購入
＋リバーミード行動記憶検査、BIT行動性無視検査、CAT標準注意検査法、
レーブン色彩マトリックス検査導入
②入所2名、通所2名　臨床実習指導者講習修了者配置
③入所：2階で壁飾り、カレンダー等継続
通所：1階で習字、園芸、テーブルゲーム、手芸等の活動を介護士と協業
④OT会議にて話し合いの場を設ける

●過程　process
①井口先生による人間作業モデル講習受講（5/10、8/12）　YouTubeで共有
②担当利用者の介入時間以外は、各階体操、サーキット、リハ合宿等定期的に対応
③各々作品を作成し区民ギャラリーに出展
④パーキンソンの利用者に対してのホームエクササイズに対して勉強会の検討

●結果　outcome
①人間作業モデルでの評価を入所9名、通所2名実施
②入所・通所・訪問と横断的に関わることができ、地域での作業療法が理解できた。
実習に来てみて、面白みを感じることができたと学生からの声が上がる。
利用者の声を聞き自助具の作成（カメラ台、手指伸展装具×2）に至った（レポート有）
③4月、11月、1月に区民ギャラリーに出展し、11月、1月に関しては見学ツアーを実施した
④京都橘大学　高畑OTに研修を打診するものの実施には至らず

≪次年度持ち越し課題≫
MOHO　評価の習熟を図る